



TITLE:

小賣相場と卸賣相場

AUTHOR(S):

汐見, 三郎

CITATION:

汐見, 三郎. 小賣相場と卸賣相場. 經濟論叢 1922, 15(4): 640-644

ISSUE DATE:

1922-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127946>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第十卷 第四號

大正十一年十一月一日發行

論叢

傳統派の社會連帶思想

文學博士 米田庄太郎

時機尙早なる社會革命の企

法學博士 河上肇

階級に就いて

文學博士 高田保馬

經濟と自由

經濟學士 堀經夫

時論

物價調節問題

法學博士 河田嗣郎

營業稅論

法學博士 小川郷太郎

說苑

租稅負擔の地方別研究

法學士 汐見三郎

雜錄

一九二一年英領印度勞働爭議

法學士 柴田規矩三

小賣相場と卸賣相場

法學士 汐見三郎

小賣相場と卸賣相場

沙 見 三 郎

第一 小賣指數と卸賣指數

物價指數なるものは、貨幣の購買力を測定するを以て、其最も重要な機能なりとすと一般に云はれてゐる。貨幣の購買力なる言葉は其意味が極めて漠然としてゐるが、兎に角一國にて取引せられたる貨物の總額とそれに用ひられし貨幣の數量との比を指してゐる。幾何の貨幣を提供すれば幾何の貨物の取引を完了し得べきか、一定貨物を購買するに際し使用すべき貨幣額如何、これ物價指數の始めて明にする所である。從來一圓を提供して米五升を得たるに、今日は一圓にては米二升を得るに止まるとせよ、此場合一圓なる貨幣の購買力は米五升より米二升に下落したのである。一方米價は二十錢より五十錢に騰貴せるが故に、米の物價指數は一〇〇より二五〇に増加した譯である。同様の事實は凡ての貨物について窺ふ事が出来る。故に、凡ての取引貨物の物價指數——通常は物價指數の總平均を利用するが——の騰落は、應て正反對

に貨幣の購買力の増減を示してゐるのである。

所謂貨幣の購買力は取引せらるゝ凡ての貨物について始めて云ひ得る所なるが故に、直接に消費者に關係ある小賣取引と消費者には間接の關係に立つ卸賣取引との兩者にわたつて之を調査せねばならぬ。蓋し小賣取引と卸賣取引とは流通現象なる事に於ては少しも異なる所なく兩者共に貨幣を必要とするからである。要するに、物價指數によりて貨幣の購買力を測定する以上は小賣指數卸賣指數の兩者に着目せねばならぬ。

物價指數には、貨幣の購買力測定の第一次的且つ一般的職能の外に第二次的特殊的機能が存在してゐる。景氣不景氣の測定生計費の調査と呼ばれてゐるのが夫れである。生計費の調査は消費者利益の問題なるが故に小賣相場によるべく景氣不景氣は生産者利益と密接なる關係あるが故に卸賣相場によるべきである。

以上の如く物價指數には、其目的よりせば、一般的のものの特殊のものあり、或は小賣相場卸賣相場の兩者又は其一を内容としてゐる、故に互に密接なる關係に立つ小賣卸賣の兩指數を比較する事は非常に重要となつてくる。

從來の物價指數の大部分は卸賣指數なりしが、近來小賣指數が漸く用ひらるゝに至つた。

消費者利益が考へらるゝにつれ生計費調査が物價指數の重要な職分となつたからである。茲には専ら日用品を主としたる大阪商業會議所の小賣卸賣指數を紹介する。

第二 日用品の小賣卸賣値開き

日本銀行農商務省其他では卸賣指數の外に小賣指數を調査してゐる。此等の指數を見るに、卸賣相場は卸賣指數として單獨に調査し、小賣指數は又別に之を一纏めとしたのであつて、云はゞ異種の兩指數を併存せしめてゐる。然るに大阪商業會議所の指數は、同一種類、同一銘柄の日用品の同一分量につき小賣卸賣の兩者を調査したのであるから、此場合の小賣相場と卸賣相場とは極めて密接なる關係に立つてゐる。小賣卸賣の値開きの問題の如き、此種の指數によ

りて始めて解決出来るのである。大阪商業會議所の指數を選んだのは全く此理由に出てゐる。

本指數は已に大正九年十一月より存し現今三十六品目に及んでゐるが、調査方針の變更が一再に止まらざるが故に、其全部を無條件に利用するを得ないのである。種々の事情を慮り、結局廿五品目につき大正十一年三月乃至八月の最近六ヶ月間に於ける趨勢を研究する事とした。大多數は前月上旬の卸賣相場と當月十六七日現在の小賣相場とを比較したが、特に○印の品目に限り卸賣相場として當月十三日現在を採用したのである。商業會議所調査三十六品目の中、醬酒、食鹽、ウドン、梅干、鯉節、豆腐、高野豆腐、モスリン、足袋、燐寸、石鹼の九品を除き調査した。指數は凡て大正十一年一月十七日の價格を一〇〇としたものである。大體次の如き結果を示してゐる。

	卸 賣 指 數						小 賣 指 數					
	三月	四月	五月	六月	七月	八月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
○白米(上等米)	115	113	110	108	106	104	115	113	110	108	106	104
○改 麥(厚平麥)	108	106	104	102	100	98	108	106	104	102	100	98
○大 豆(鶴の子)	108	106	104	102	100	98	108	106	104	102	100	98
○小 豆(大納言)	108	106	104	102	100	98	108	106	104	102	100	98

[illegible]

更に小賣卸賣の値開きを比較して次の表を得た。數字を明確ならしむるため、値開きが水準の上下に如何に分布せられてゐるかを示したのである、品目が異なるに従ひ如何に値開きが異なるか、各月の値開きの變化如何等を調べて置いた。

六四三

六ヶ月間の實蹟のみでは斷定し難いが、大體の趨勢は察し得られないでもない。値開きの最も大なるは牛乳、機械半紙、大豆、綿縫糸にして、最も小なるは白米、酒、綿、澤庵にして、茶、鶏卵、玉葱、鹽麴、干瓢が平均に近いのである。

第三 小賣相場と卸賣相場との關係

我國に於ては生産者と消費者との間に幾多の仲間商人が存在してゐる。これ小賣相場と卸賣相場との間に値開きを生ずる所以である。思ふに日用品が生産者の手より消費者の口に入るに先んじ價格が暴騰するは好ましからぬ事であつて、今回の物價調節も全く此間の不合理を匡正せんとするのである。然れども小賣卸賣の値開きを以て直に小賣商人を暴利なりと斷するは、決して當を得たものでない。

卸賣相場と云つても大問屋の扱ふ値段と小賣商直前の仲買の値段とは非常に異つてゐる、果して何れを採るべきか。然し大體に於て卸賣は取引が物的基礎に立つが故に相場が一定してゐる譯である。然るに小賣相場に至りては、小賣商と消費者との人的要素が大影響を及ぼすので

ある。第一場所により異なる、場末か中央か市場の距離の遠近等により高下の差が甚だしい。又取引の相手方たる消費者の信用其他により異なる、掛賣現金、店賣配達の如何も考へねばならぬ。更に品物により差異を生ず、徳用品と稱する客寄せの品物と然らざる物とを分たねばならぬ。

小賣相場と卸賣相場との値開きの算定には更に困難が加はる。第一に小賣の品物は形式的實質的の加工の結果卸賣の品物と同一でない上に、一方が大量取引なるに他方は小量にて取引の單位異なる。其他多數人の手を通過する程金利、保険料等の失費が嵩むのである。況んや卸賣相場に幾種類あり小賣も然りとせば、何れの相場を組合せて値開きを算出すべきや愈々困難となる。

物價調節の手段として小賣相場と卸賣相場とを接近せしめんとする企が、最近可なり大規模に實行せられてゐるが、其目的を貫徹せんが爲めには小賣相場と卸賣相場との値開きの程度及び値開きの根據につき、更に詳細なる攻究を積む必要がある。